

■ 政治的教養を育む教育の取組

「公民科における18歳選挙権に関する取り組み」

◇ ね ら い

18歳選挙権という題材を通して、選挙制度の基礎知識や政治への関心を高め、情報としっかりと向き合い、自己決定ができるようになる。

◇ 内 容

1限目 前半 ・なぜ選挙権が18歳まで引き下げられたのか

・二院制、政党について

の2つについて講義を行い、若者の声を政治に反映させる必要があるということ、選挙に出る人はどのようなことを考えているのかについて学習した。

後半 「私たちが拓く日本の未来」を活用し、実際の選挙の方法や選挙期間中の注意点について学習した後、架空の政党議員で衆議院総選挙の模擬投票を行った。

2限目 前半 3クラスの模擬投票の結果を基に、衆議院選挙の小選挙区比例代表並立制による当選の仕組みの講義をした。生徒は、小選挙区制は、当選した1名以外に入れた票は死票になってしまうこと、その死票を減らすために行われている比例代表選挙ではドント式によって当選者が決められていることを実際に計算してみることで学習した。

後半 衆議院と参議院の選挙制度についてプリントで復習した後、最重要項目として「情報とどのように向き合うか」についての生徒と話し合いながら講義を進めた。世論調査やテレビ、ネットといった題材を通し、情報は扱う人の見せ方によってどのようにも変わることに、まず、情報源はどこか、どのように調べた統計なのかというように、情報を疑うことの大切さについて学習した。

◇ 教科・科目等

現代社会

◇ 参 加 生 徒

3年生82名（電子機械科・情報技術科・環境土木科の3クラス）

◇ 取組の成果等

1 実施する上で工夫した点

- (1) 生徒にとって関心を持ちにくい政治というものをなるべく身近に感じられるように教える順序を意識して指導した。
- (2) 政治という題材を通して、情報とどのように向き合うかについて考えることで情報リテラシーの向上を図った。

2 成果と課題

○順序立てて説明を行ったことや作業を取り入れたことで政治への関心が高まった。

○情報を疑ってみる大切さについてしっかりと学ぶことができた。

●自分で物事を決定するために、基礎知識の定着がさらに必要だと感じた。